新緑の「伊豆ヶ岳」ハイキング

ハイキング同好会　服部

今年に入って火曜日は天気が悪い。このハイキングも当初の予定では４月30日、芝桜の羊山公園―琴平丘陵だった。しかし雨天で５月14日に延期になり、芝桜のシーズンが過ぎてしまった。他の理由もあって、行き先を伊豆ヶ岳に変更したが、14日も予報が悪くスケジュールの変更を諮るも、皆の都合のいい日がない。天気予報が好転することを期待していると、直前になり予報が良くなった。さらに当日、予報より早めに雨は上がり朝から晴れる。参加者の普段の行いが良かったのか、この日に参加した晴れ女のせいなのか、都合がつかなかったメンバーが不参加だったせいなのか、結論は出ない。

名栗げんきプラザ　　右写真：中央奥が窓口、ここにあるノートに記入する

10時、名栗げんきプラザ駐車場に集合。受付で駐車場利用ノートに行き先・車両番号・氏名などを記入し、トイレを済ませ、10時15分出発。沢沿いの道を少し歩き、すぐ直登する。新緑のなか、確実に高度を稼ぐ。爽やかな空気のなかでも、すこし歩くと汗をかく、衣類の着脱で体温を調整する。10時40分コースタイム通りに長岩峠に着く。

長岩峠で一休み

伊豆が岳を有名にしている今は通れない「男坂」や「女坂」の間にある「(ニュー)ハーフ坂」を登る。うまい命名だと感心していたら、これはメンバーによる勝手な命名だったようだ。11:20 到着、ほぼコースタイム通りに登る。ここで食事。爽やかな空気、新緑、遠くに西武ドーム(正式名称は何だったか)、子ノ権現の屋根がきらっと光っている。山頂付近ではヤマツツジがオレンジ色の花をつけている。新緑との対比が美しい。ここで食事。いつもの暖かいコーヒーをご馳走になる。

12 時前に下山開始、12 時 55 分、山伏峠で車道へ出る。13 時５分　元気プラザに戻る。なんと下りもほぼコースタイム通りの１時間 10 分、まだまだ若い。登り、下りとも１時間余りのショートハイキングになった。これなら次の日に筋肉痛になることはないだろう。天気も良く楽しいハイキングになった。次回は６月４日(火)　(予備日６月 11 日(火))　「武川岳」の予定。

ヒメウツギ

参考：　伊豆ヶ岳（標高）８５１m。名前の由来は、快晴の日に山頂に登ると伊豆まで見えるからという説や、柚の木が多く生えていたからという「柚ヶ岳説」、山麓で温泉が湧き出ていたからという「湯津ヶ岳説」。さらにアイヌ語起源などいろいろな説がある。

山頂直下には男坂という鎖場があり伊豆ヶ岳の名所となっていたが、岩場が崩れやすく危険なため現在通行禁止となっている。 また女坂では 2012 年に崩落があり通行止めとなった。山頂からは西武ドーム、空気の澄んだ快晴の日には都心の高層ビル群や浅間山、男体山まで見渡すことができる。

出典　伊豆ヶ岳 - Wikipedia